

職員による自己評価

- ・ A環境面
集計時の2月時点、利用者の支援にあたり、配置する人数が適切と感じていないことに関し3月より新しい職員を迎えることができた。定着によって支援における層の厚さをより一層強くしたい。
- ・ B児童への支援内容
サービス提供前のスタッフ間の打ち合わせで、細部の共有を行うことで利用者の支援についての満足度も高く現れていた。今後も維持していきたい。
- ・ C関係機関との連携
自支協の勉強会等外部への参加を積極的に実施しているが、落とし込みに関して乏しい可能性あり。
全職員を対象に今後も案内や参加をしていきたい。
- ・ D保護者への説明責任・信頼関係
Bでの内容と重複する部分があるが、起きた事柄に関して情報伝達は心がけた。アンケートの声からも保護者対応においてのスピード感を重視し、安心していただける環境を維持したい。
- ・ E非常対応
地震時、火災時とケースを定め定期的な実施を継続していく。

保護者による評価

- A.環境面
施設内の設備面に関して「わからない」の回答も多くみられた。
事業所での面談時などに施設内を改めてご覧いただき、判断材料に繋げることができればと考える。
- B.児童への支援内容
プログラムの工夫、通所を楽しみにされていること、支援に満足されているかのサービスに関して回答していただけた方には大方「はい」をいただくことができた。
今後も継続していきたい。
- C.事業所からの情報発信
○活動内容報告に関して SNS (instagram) にて行っているが、投稿に関しては乏しいため頻度を上げていくことを検討
○父母の交流に関しては年度で利用を終了する高校3年生の利用者世帯を限定とした懇親会のみで該当しない方にはないと感じるようみられる。
- D非常対応
避難訓練等は定期的実施をしているが、全利用者に行き届いていないこともあるため、定期的実施したい。



事業所内での分析

【共通点】
職員、利用者ともに支援に対する満足度が高くみられている。

【相違点】
施設内の設備面において周知が行き足らず、わからない回答があったが職員に関しては日頃の支援に当たっていることで清潔感を保つ行いを継続的に実施しているため、「見える化」をしていくことで相違を減らしていきたい。

分析・検討してみても…

事業所の強み

○提供しているサービス内容に関して満足をしていただけていることがわかり、今後とも継続して行っていく。

○スタッフ間の情報伝達や対応において迅速に行うことができていることが要因として現れたと考える。

事業所の改善点

○ホームページなどの活動報告に関して頻度を上げていくことで取り組みの周知の乏しさの改善が必要。また、instagramがメインのためユーザーでない世帯も想定されるためほかの方法も見当たしたい。

○災害時などの対応に関しての年度の切り替わりになどのタイミングで都度配布をすることで事業所対応方法に関してご周知をする機会を提供する

事業所の改善への取り組み

○不明と回答が多かった設備面に関して部分の見える化を支援計画等の面談時にお越ししていただいた際に改めて行い、促していきたい。

○活動報告のバリエーションを増やすことで取り組みの周知を行う。(ペーパーレスに伴い、紙媒体での掲載か、トークアプリを活用したデジタル記事などで送付をするなどでの促進を検討)

○非常時のフローなどに関しては年度の切り替わりなどで配布を行い、周知していく。

～自己評価を行っての事業所としての感想など～

事業所内で行っているサービスに関して満足していただけているお声が多く、スタッフ一同励みになりました。

今後とも継続していけるよう支援に取り組んでいきたいと考えておりますのでご利用者の皆様方にはよろしくお願ひ申し上げます。

事業所名 Be-NEXT 白楽

担当者 竹内 翔吾